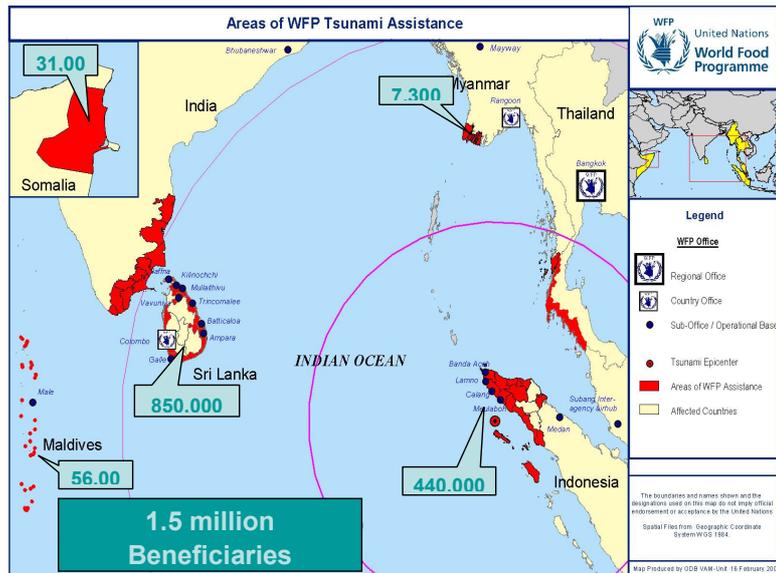


# スマトラ沖大地震・津波 WFP被災地支援活動情報



2004年12月26日のスマトラ沖大地震・津波の発生から、2カ月程が経過しました。これまでに、津波による死者及び行方不明者数は30万人にも上り、100万人以上もの人々が津波によって生活基盤を奪われました。国際社会では、今回のスマトラ沖大地震を受けて、史上最大の人道支援が繰り広げられました。WFPは、食糧配布と物資輸送態勢の整備に積極的に取り組んでいます。2月28日まで



までに、WFPの救援活動により、3万トン以上の食糧が150万人以上もの被災者のもとへ届けられました。

津波被災地の中には、今回の大地震と津波により、陸路の輸送路が破壊されてしまった地域もありました。しかし、WFPはこのような地域に対しても、航空機や船舶などあらゆる手段を利用して食糧輸送を行ってきました。現在WFPの食糧輸送のために、200台以上のトラックのほか、3機の航空機、7機のヘリコプター、6隻の船舶などが利用されています。

WFPは、パートナーであるTNTやUnileverからも航空機等の輸送機の支援を受けています。さらに、食糧やその他の支援物資、施設設備の面でも、ポスト・コンサルティング・グループやシティー・グループなど、多くの企業が協力。WFPは、今回の支援活動を通じて、過去に例のない多大な協力を支援パートナーから得ることができました。

WFPは、被災地の状況の変化に対応した適切な支援が実現できるよう、支援活動を3段階に区分しています。まず、1月から2月にかけては、緊急救援活動が中心でした。3月から6月は復興への移行期であり、この段階では、人々の生活を安定させるための食糧援助へと重点が移ります。そして、7月以降は復興・回復期として、職業訓練やインフラ再建などのための、労働の対価としての食糧援助が行われます。

Photo WFP/Rein Skullerund

## 緊急支援から復興・復旧支援へ

これまでWFPは、特に津波による被害が大きかったインドネシアやスリランカなどの津波被災地に対し、迅速な緊急食糧支援で応えてきました。2月25日時点で、45万人のインドネシアの被災者へ15,000トンの食糧を支援し、スリランカへは、85万人の被災者に対し16,000トンの食糧を届けました。



Photo WFP

現在は、学校給食プログラムを通じた食糧支援や、特に脆弱な女性や子どもを対象とした母子栄養プログラムなど、復興・復旧のための支援へとその重点を移転しつつあります。また、復興・復旧のための支援を進める一方で、労働の対価としての食糧援助である、コミュニティのインフラ再建へも取り組んでいます。

モルディブでは、補助学校給食プログラムによって、子どもたちにビスケットが配布されています。WFPによって配布されるビスケットは、たんぱく質が豊富なため、子どもたちの栄養不足を補うことができます。

一方、津波による被害を受けたインド洋周辺諸国の中でも、比較的被害が小さかったミャンマーでは、2月の段階で、他の被災地よりも逸早く労働の対価としての食糧援助へと移行し始め、インフラの再建に重点を置いた支援活動が行われています。

さらに、アフリカのソマリアでも、多くの人々が津波による被害を受けました。津波による死者数は、150人とインド洋周辺諸国と比べて比較的小さかったのですが、何千人もの人が津波によって生活を破壊されました。2月11日には、400トン以上の食糧を、3万人以上のソマリアの被災者へ届けました。

WFPは、食糧を届けるのみならず、食糧が援助を必要とする被災者のもとへきちんと行き届いているかを確認するため、食糧配布の様子や食糧貯蔵庫のモニタリングも行っています。またモニタリングでは、WFPによる食糧支援の受益者や、地域のリーダーたちへのインタビューも行われます。



Photo WFP/Antonello Nusca